

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
北海道福祉教育 専門学校	平成4年4月1日	澤 田 麻 呂	〒051-0004 北海道室蘭市母恋北町1丁目5番11号 (電話) 0143-22-7711			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 北斗文化学園	昭和31年9月15日	澤 田 豊	〒051-0011 北海道室蘭市中央町1丁目2番17号 (電話) 0143-23-4400			
目 的	児童福祉法に基づき、保育士として必要な知識及び技能に関する専門教育を行い、人格形成とその涵養に努め、社会に貢献し得る保育士を養成するとともに、幼児期における子どもの心身の発育に有益な教育を教授する幼稚園教諭の育成を目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・社会 福祉分野	福祉専門課程	こども未来学科	2年(昼)	2,340時間 (91単位)	平成6年文部科学 省告示第84号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	495時間 (33単位)	1,350時間 (45単位)	0時間 (0単位)	450時間 (10単位)	45時間 (3単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
100人	68人	6人	22人	28人		
学期制度	■前期 ：4月1日～9月30日 ■後期 ：10月1日～翌年3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 学科試験、実習成績、出席時数並びに平素の学習状況等によって行う。	
長期休み	■夏 季 ：7月25日から8月16日まで ■冬 季 ：12月20日から1月18日まで ■春 季 ：3月21日から4月8日まで			卒業・進級条件	【進級】 学科試験、実習成績並びに出席状況、欠席日数を総合勘案。 【卒業】 本校の定める学科目の全てを終了し、卒業試験に合格した者。	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 保護者と連絡し復学へ向けて面談を行う。 必要に応じてカウンセラー等の助言や紹介をする。			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動、地域社会との交流 ■サークル活動 (有・無)	
就職等の状況	■主な就職先、業界等 幼稚園、保育所・保育園(認可) ほか ■就職率^{※1} 100 % ■卒業者に占める就職者の割合^{※2} 92.7 % <small>(平成27年度卒業者に関する平成28年3月時点の情報)</small>			主な資格・検定	保育士、幼稚園教諭二種免許状、 社会福祉主事、短期大学士、 専門士称号、赤十字幼児安全法 支援員	

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 6 名 ■中退率 6.4 %</p> <p>平成 27年 4月 1日在学者 94 名 (平成 27年 4月入学者を含む)</p> <p>平成 28年 3月 31日在学者 88 名 (平成 28年 3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>進路変更のため</p> <p>■中退防止のための取組</p> <p>担任制度を導入し、細かな面談を個別に実施している。必要に応じて臨床心理士等の専門家を紹介している。</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL: http://www.hokuto-bunka.ac.jp/wevs/</p>

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

設置校の教育課程編成の基本方針は、設置校の目標とする教育計画に基づき次の各号に掲げる教育目標を達成するために「専修学校の専門課程における職業実践専門課程の認定に関する規定」(文部科学省告示第百三十三号)の目的を踏まえて、その規程にある企業等との連携を確保して、学生の修学上、職業実践における専門性の向上が見込まれる効果のある教育課程の履修が出来るように「保育実習Ⅰ」等の現場実習科目を設けて体系的にこれを編成する。

ただし、資格取得に関わる厚生労働省指定養成施設の設置規則に抵触しない範囲によって行われるものとする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 27 年 11 月 1 日現在

名 前	所 属
澤田 麻 呂	北海道福祉教育専門学校 学校長
伊藤 隆 治	公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 北海道支部 事務局長
滝野 賢次郎	(株)ケアコミュニケーションズ 代表取締役

(開催日時)

第 1 回 平成 27 年 11 月 20 日 14 : 00 ~ 15 : 30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

保育士として仕事をする上で必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」について、現場体験を通じて学ぶことを目的としている。具体的には、保育士としての職業倫理についての学習、援助業務に必要な資質・能力・技術の習得、関連分野の専門職との連携についての理解、具体的な体験を専門的援助技術として概念化し体系立てられるような能力の涵養を目指している。

教育課程の編成に当たっては、適切な実習体制の確立が求められていることを考慮して実習計画の策定及び実習指導体制の充実を図っている。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
保育実習Ⅰ	保育所及び児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解させる。既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ばせる。	○室蘭市 中島保育所 ○登別市 鷺別保育所 ○伊達市 つつじ保育所 ○室蘭市こども発達支援センター あいくる ○児童養護施設 わかすぎ学園 他 計 32 施設
保育実習Ⅱ	保育所の保育を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させる。家庭との地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援するために必要とされる能力を養う。(1)	○室蘭市 中島保育所 ○登別市 鷺別保育所 ○伊達市 つつじ保育所 ○室蘭市こども発達支援センター あいくる ○児童養護施設 わかすぎ学園 他 計 32 施設
保育実習Ⅲ	保育所の保育を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させる。家庭との地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援するために必要とされる能力を養う。(2)	○室蘭市 中島保育所 ○登別市 鷺別保育所 ○伊達市 つつじ保育所 ○室蘭市こども発達支援センター あいくる ○児童養護施設 わかすぎ学園 他 計 32 施設
教育実習	幼稚園での学外実習は、観察と参加を中心に行う。この科目は、現場実習を通して、幼稚園教員の役割、子ども達の実践的理解、保育現場の環境構成などに実際に触れることを目的とする。	○京王幼稚園 ○清泉幼稚園 ○桜ヶ丘幼稚園 ○白菊幼稚園 ○すみれ文化幼稚園 他 計 16 園

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本学園の設置する専修学校（以下、設置校という。）は、管内唯一の学科形態を有する専修学校につき、その社会的使命を鑑み、そこに勤務する教員の資質の向上を恒常的に図ることにより、常に最新の専門性の高い知識と技術を学生に教授することを目的とする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年11月1日現在

名 前	所 属
澤田 麻呂	北海道福祉教育専門学校 学校長
滝野 賢次郎	(株)ケアコミュニケーションズ 代表取締役
木口 健一	元室蘭市職員
大越 陽子	主婦
和泉田 悟	介護福祉士

(学校関係者評価結果の公表方法)

学生・保護者へ送付並びに学園本部ビル屋外掲示板に掲示（公表時期：6月初旬）

5. 情報提供

(情報提供の方法)

学生・保護者へ送付並びに学園本部ビル屋外掲示板に掲示（公表時期：6月初旬）

授業科目等の概要

(福祉専門課程 こども未来学科) 平成27年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			法学 (日本国憲法)	実際に起こった事件(裁判例等)を用い、法律や憲法の問題を身近に感じてもらう。また、法律や憲法が生活の中に様々な形で関わっていることに気づき、法律や憲法の考え方、民主主義の本質(少数者の人権の尊重)を理解してもらう。本講義より法律や憲法の講義を通して、他人に対する思いやり・配慮の気持ちを養う。	1 前	30	2	○		
○			心理学	人間理解のための心理学的な探求方法について理解する。心理学におけるいくつかの分野の基本的な理論を理解する。知覚の特性を列挙し、説明できる。学習理論について説明できる。実験を通して記憶の種類や特性を説明できる。代表的な発達理論について説明できる。	1 前	30	2	○		
○			情報リテラシ -と処理技術	パソコンの基礎技術の習得に主眼をおきながら、将来専門職に就いてから役立つような技術・技能の習得を目標とする。	1 通	30	2			○
○			英語コミュニ ケーション	学校で勉強してよく知っているはずの英語文法を、実際の生活の中にありそうな場面ごとにまとめて復習し、迷ったり間違ったりせずに使いこなせるように、必要な単語や表現を補強しながら、会話・聞き取り練習を中心に授業をすすめる。	1 後	60	2		○	
○			健康科学	人生における健康意識、生活を豊かにする上での身体運動の意義を理解することからはじめ、具体的にどのような取り組みをなすべきか考えていく。特に、これから社会人として充実した生活を送るために望まれる生理学的・心理学的・社会的な知識・知恵を、数多くの調査・研究の成果を引用しながら学習する。	1 前	15	1	○		
○			スポーツ (実技)	筋肉や関節の強さや柔軟さ、循環器の持久性を高める手続きを紹介しながら、あわせて、スポーツ運動の実施により、チームワークのあり方、心の緊張と大筋運動の関わりを具体化していく。	1 前	15	1			○
○			社会福祉論	現代社会における社会福祉の意識、理念について理解させる。社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨を理解させる。社会福祉サービス体系における公私の役割活動について理解させる。社会福祉援助技術及び福祉専門職の役割について理解させる。社会福祉の関連領域-医療福祉・地域福祉・ボランティア活動の概要を把握させる。現代における利用者保護制度(第三評価、苦情解決、権利擁護、情報提供等)を理解させる。	1 前	30	2	○		
○			相談援助	さまざまな生活状況にある保護者を支援するために、相談援助の知識や理論について学習する。相談援助の歴史的展開、構造、専門性、展開過程などを学び、今日における援助の課題についても考察する。そして、援助を必要とする人の抱えている問題を把握し、生活環境や家族との関係、社会状況を認識し、お互いの信頼関係を構築しながら学んだ知識と技術を習得する。	1 後	30	1		○	
○			児童家庭 福祉論	児童福祉の意義及び歴史的展開展開過程について理解させる。児童福祉の法律、制度、福祉機関・施設を体系的に理解させる。児童福祉サービスの現状と課題を理解させる。児童福祉の専門職としての保育士の役割を理解させる。児童、家族に対する相談援助活動について理解させる。	1 後	30	2	○		
小計					9科目	270時間(15単位)				

授業科目等の概要

(専門課程 こども未来学科) 平成27年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			法学 (日本国憲法)	実際に起こった事件(裁判例等)を用い、法律や憲法の問題を身近に感じてもらう。また、法律や憲法が生活の中に様々な形で関わっていることに気付き、法律や憲法の考え方、民主主義の本質(少数者の人権の尊重)を理解してもらう。本講義より法律や憲法の講義を通して、他人に対する思いやり・配慮の気持ちを養う。	1前	30	2	○		
○			心理学	人間理解のための心理学的な探求方法について理解する。心理学におけるいくつかの分野の基本的な理論を理解する。知覚の特性を列挙し、説明できる。学習理論について説明できる。実験を通して記憶の種類や特性を説明できる。代表的な発達理論について説明できる。	1前	30	2	○		
○			情報リテラシーと処理技術	パソコンの基礎技術の習得に主眼をおきながら、将来専門職に就いてから役立つような技術・技能の習得を目標とする。	1通	30	2			○
○			英語コミュニケーション	学校で勉強してよく知っているはずの英語文法を、実際の生活の中にあるような場面ごとにまとめて復習し、迷ったり間違ったりせず使いこなせるように、必要な単語や表現を補強しながら、会話・聞き取り練習を中心に授業をすすめる。	1後	60	2		○	
○			健康科学	人生における健康意識、生活を豊かにする上での身体運動の意義を理解することからはじめ、具体的にどのような取り組みをなすべきか考えていく。特に、これから社会人として充実した生活を送るために望まれる生理学的・心理学的・社会的な知識・知恵を、数多くの調査・研究の成果を引用しながら学習する。	1前	15	1	○		
○			スポーツ(実技)	筋肉や関節の強さや柔軟さ、循環器の持久性を高める手続きを紹介しながら、あわせて、スポーツ運動の実施により、チームワークのあり方、心の緊張と大筋運動の関わりを具体化していく。	1前	15	1			○
○			社会福祉論	現代社会における社会福祉の意識、理念について理解させる。社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨を理解させる。社会福祉サービス体系における公私の役割活動について理解させる。社会福祉援助技術及び福祉専門職の役割について理解させる。社会福祉の関連領域(医療福祉・地域福祉・ボランティア)活動の概要を把握させる。現代における利用者保護制度(第三評価、苦情解決、権利擁護、情報提供等)を理解させる。	1前	30	2	○		
○			相談援助	さまざまな生活状況にある保護者を支援するために、相談援助の知識や理論について学習する。相談援助の歴史的展開、構造、専門性、展開過程などを学び、今日における援助の課題についても考察する。そして、援助を必要とする人の抱えている問題を把握し、生活環境や家族との関係、社会状況を認識し、お互いの信頼関係を構築しながら学んだ知識と技術を習得する。	1後	30	1		○	
○			児童家庭福祉論	児童福祉の意義及び歴史的展開過程について理解させる。児童福祉の法律、制度、福祉機関・施設を体系的に理解させる。児童福祉サービスの現状と課題を理解させる。児童福祉の専門職としての保育士の役割を理解させる。児童、家族に対する相談援助活動について理解させる。	1後	30	2	○		
小計					9科目	270時間(15単位)				

授業科目等の概要

(福祉専門課程 こども未来学科) 平成27年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			こどもの食と栄養	小児期の栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎であることを理解し小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義を理解させる。保育者として、保育との関連のなかで、小児に適切な食事が提供できることの意義を理解させる。保育者として、保育における食生活が心の健康にも影響することを理解させる。食生活が、家族の健康や生活、地域との密接な関係があることを理解させる。食生活を通じて、生活全般や環境の望ましい姿を理解させる。	2 通	60	2		○	
○			家庭支援論	保育所のもつ「子育て支援」を重要な社会的役割として理解し、児童・親を含めた家族が保育の対象であることを理解させる。「子育て支援」は保育所だけでなく、その他の児童福祉施設の親についても同様に必要とされることを理解させる。現在の家族を取り巻く社会環境における家庭生活、とくにその人間関係(夫婦・親子・きょうだい)のあり方を理解すること及びそれをふまえて適切な「相談・助言」を行うことは「子育て支援」のために欠かせないものであることを理解させる。これらを踏まえ、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援対策を提供するため、児童福祉の基礎となる家族の福祉を図るための種々の援助活動及び関係機関との連携について理解させる。	2 前	30	2	○		
○			保育相談	現在教育現場に置いて生徒児童が示す様々な不適応は広く社会問題とまでなっており、親や教師でさえ児童生徒の心を適切に把握しケアを行うことが困難になっている。現在の子ども達は、今まで誰も経験したことのない複雑化した社会、多様な価値観、急激に変化していく家族形態など、様々な変化に取り巻かれている。このような社会のもとで、子どもの抱える心的問題に対して専門的知識に基づく対応の必要性が認識され、 <i>カウセリング</i> などが行われるようになってきた。生徒が抱える問題への対応、問題の発見、生徒指導、学級経営などを考える上で果たす教育相談の役割を理解させる。	2 前	30	2	○		
○			こども学概論	小児時代に遭遇している現代の子どもの問題をベースに、日本の子どもの未来へのビジョンを考え、何時、何が起きてもち立ち上がる自我のパワーベース作りを如何に考えるかを狙いとする。	1 前	30	2	○		
○			保育内容総論	「保育内容」とは、保育所において保育の目標を達成させるために展開される全ての内容を意味するものであることを理解させる。領域別(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の教科の学びと共に、それらを総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ばせる。保育士として、発達過程に即して子どもを理解することと、総合的に指導・援助が行えるよう実践的な力を習得させる。	1 前	30	1		○	
○			(保育内容演習) こどもと健康	子どもの身体諸機能の発達を知り、発達段階に応じた遊びの意義や内容について理解する。また、子どもが日常生活における身の回りのことを自分でする習慣や、集団生活を通して友達や教育者・保育者など他者との関わり方、健康で安定した生活が送れるような態度や習慣を培う指導方法について学ぶ。子どもの健康の意義と身体諸機能の発達について理解し、病気を予防や事故の防止など、子どもの健康・安全に対する配慮・援助についての具体的内容や方法を習得し、子どもの健康教育に携わる教育者・保育者として求められる基本的態度及び能力を養う。	1 前	30	1		○	
○			(保育内容演習) こどもと人間関係	子どもの人間関係がどのように育っていくかを学ぶことに加えて、子どもの自立心や人とのかかわる力を養うために必要となる保育・教育の実践方法や援助方法についてを理解させる。	1 後	30	1		○	
○			(保育内容演習) こどもと環境	乳児から幼児への時期は、自己とは異なる身の回りの事象との関わりを認識し始める時期である。この授業では、事象を自然事象に限定し、自然事象に関心をもち続け、子どもの立場からみた疑問に対して答えることができるような態度及び、数量・文字・標識に対する関心をもち、創造と工夫によって科学的遊びの楽しさを、子どもに対して教えることができる能力を習得させる。	1 後	30	1		○	
○			(保育内容演習) こどもと言葉	乳幼児期、言葉はどのようにして獲得され、育っていくのか。言葉を用いていかにして思考を深め、人に伝達するのか。思考することと言葉の結びつき、また、イメージーションを豊かにすることが言葉の発達につながるというのはいかにいうことなのかなどについて理解を深めると共に、子どもの言葉を豊かに育む保育者としての資質を養う。	1 前	30	1		○	
小計				9科目	300時間(13単位)					

授業科目等の概要

(福祉専門課程 こども未来学科) 平成27年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			(保育内容演習) こどもとリズム表現	幼稚園教育要領・保育指針における領域「表現」(特にリズム表現)の設定を理解し、実践と考察を通して幼児のための指導者自身の領域「表現」のあり方について学習していく。ムーブメント(動くこと)と幼児用楽器の取扱い方を中心に展開していく。	1 前	30	1		○	
○			(保育内容演習) こどもと造形表現Ⅰ	こどもは発達と共に感性も広がりを見せ、いろいろなことに興味を持ち体験してゆく。このことを踏まえ、幼稚園、保育所での表現(絵画造形表現)と子どもの発達へのつながりを考えながら教材研究を中心に製作指導を行う。また、教材に使用する材料について、表現技法なども学習する。	1 前	30	1		○	
○			こどもと造形 表現Ⅱ	幼児の発達段階と造形・表現との関連について理解し、指導する上での基本的事項を理論と実践を通して身につける。また、自らが「表現すること」「創造すること」の喜びを知り、豊かな感性を養う。	2 後	30	1		○	
○			障害児保育	一般の保育と障害児保育との連続性にきづかせ、一人ひとりの発達上の課題に対しての特別な保育「-ズ」を支援を明らかにする観点からの障害理解を促す。障害児保育を支える理念に関して理解を深め、併せて、保育所、障害乳幼児通園施設等での保育の実態と現状、及び今後の課題を理解させる。様々な障害についての理解を促し、個別的な保育上の留意点について学習させる。障害児保育場面における、日常生活動作、食事動作、排泄動作、更衣動作など具体的な保育方法について理解させる。相談機関などの種類と内容を理解すると共に、障害児への個別的援助の概略と保護者を中心とした支援の内容に関して理解を深めさせる。	1 通	60	2		○	
○			社会的養護 内容	模範的に居住型の児童福祉施設などを利用している児童の立場になったり生活プログラムを作成するなどの演習をとおして、日常的に展開されている具体的な児童の生活や援助者の援助を理解させる。児童の心身の成長や発達を保障し援助するために必要な知識や技能を習得させる。児童観や施設養護観を養う。	2 後	30	1		○	
○			乳児保育	わが国における乳児保育の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を確認しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚させる。保育所や乳児院で乳児保育を担当する保育士として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解させる。広く乳児期(3歳未満児)の発達と保育について学びながら、そこにおける大人の役割について、事例をもとに具体的に理解させる。乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題を、討議しながら考え問題解決の方法を理解させる。	1 後	60	2		○	
○			保育相談 支援	連絡帳を書いたり、送迎時に保護者の話を聞き子どもの様子を保護者に伝えるなどの、「保育相談支援」という行為を振り返り、その意味を考え、理解させるとともに、保護者に信頼される相談相手となって子どもの最善利益を擁護できるための能力を養う。	2 前	30	1		○	
○			保育課程論	保育所や幼稚園といった集団生活をする場において、一人ひとりの子どもがそれぞれの発達にふさわしい経験を重ねていくために必要なもの、それが「保育課程」である。この、保育課程の編成、展開、評価、改善までを学習し、理解させる。また、子ども一人ひとりが主体的に充実した生活を積み重ねるための生活の骨格作りについても学習する。	2 前	30	2	○		
○			保育方法論	教育の情報化の動きの中で、教育方法に期待されていることを理論的・実践的に学ぶとともに、子どもたちが教育内容に取り組む際にそれを支援する学習環境の在り方を、事例研究、カリキュラムデザインの実践を通して学ぶ。	1 後	30	2	○		
小計					9科目	330時間(13単位)				

授業科目等の概要

(福祉専門課程 こども未来学科) 平成27年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			こどもと音楽Ⅰ	音楽に関する基本的な知識や技能を身につける。 ・楽譜を読むために必要な基本的な知識	1通	60	2		○	
○			こどもと音楽Ⅱ	音楽に関する基本的な知識や技能を身につける。 ・歌い、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識や技能	2通	60	2		○	
○			こどもと音楽表現第1教程	様々な音楽活動を通して楽しさや喜びを体験し、こどもの歌、簡易楽器、ピアノなど器楽による伴奏法など、保育実践において必要な知識や技能を習得させる。(1)	1前	30	1		○	
○			こどもと音楽表現第2教程	様々な音楽活動を通して楽しさや喜びを体験し、こどもの歌、簡易楽器、ピアノなど器楽による伴奏法など、保育実践において必要な知識や技能を習得させる。(2)	1後	30	1		○	
○			こどもと音楽表現第3教程	様々な音楽活動を通して楽しさや喜びを体験し、こどもの歌、簡易楽器、ピアノなど器楽による伴奏法など、保育実践において必要な知識や技能を習得させる。(3)	2通	60	2		○	
○			こどもと体育Ⅰ	身体運動に関する基本的な知識を理解するとともに、身体能力や運動技能を高める。また、保育の中で取り上げる運動遊びに関する教材の作成・安全管理などについて、必要な知識や技能を習得させる。(1)	1後	30	1		○	
○			こどもと体育Ⅱ	身体運動に関する基本的な知識を理解するとともに、身体能力や運動技能を高める。また、保育の中で取り上げる運動遊びに関する教材の作成・安全管理などについて、必要な知識や技能を習得させる。(2)	2前	30	1		○	
○			こどもと言語表現	言葉はその人の人間性を表現するものであることを理解するとともに、子ども達の言葉の発達を豊かに育むために必要な知識や技能を養う。また、保育実習対応として、絵本の読み聞かせの実践を行う。	1前	30	1		○	
○			こどもと造形Ⅰ	図画工作に関する基本的な知識や技能を身につける。 ・造形活動を行う上で必要な材料や道具などに関する基本的な知識 ・描き造るために必要な絵画や工作、彫塑などに関する知識や技能	1後	30	1		○	
小計					9科目	360時間(12単位)				

授業科目等の概要

(福祉専門課程 こども未来学科) 平成27年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			こどもと造形Ⅱ	図画工作に関する基本的な知識や技能を身につける。 ・様々な造形活動を通しての楽しさや喜びの経験 ・造形玩具、遊具、ペープサート、影絵など保育実践において必要な知識や技能	2後	30	1		○	
○			保育実習Ⅰ	保育所及び児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解させる。既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ばせる。	2前	180	4			○
○			保育実習Ⅱ	保育所の保育を実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させる。家庭との地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援するために必要とされる能力を養う。(1)	2後	45	1			○
○			保育実習Ⅲ	保育所の保育を実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させる。家庭との地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援するために必要とされる能力を養う。(2)	2後	45	1			○
○			教育実習	幼稚園での学外実習は、観察と参加を中心に行う。この科目は、現場実習を通して、幼稚園教員の役割、子ども達の実践的理解、保育現場の環境構成などに実際に触れることを目的とする。	2後	180	4			○
○			保育実習事前事後指導Ⅰ	保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。(1)	2前	60	2			○
○			保育実習事前事後指導Ⅱ	保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。(2)	2後	30	1			○
○			保育実習事前事後指導Ⅲ	保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。(3)	2後	30	1			○
○			教育実習事前事後指導	この科目は保育実習に当たって、その心構えや具体的な知識を含めたオリエンテーション、保育現場で求められる実技指導、実習園へ行く前の事前指導と、実習中の巡回教員からの指導、実習後の個別指導などから構成されている。この科目に出席し、その指導を積極的に受ける姿勢を示さない学生は教育実習を受けることは出来ない。	2通	60	2			○
小計					9科目	660時間(17単位)				

